

# 紙幣通じ人の縁 感じて

## 板倉区の平田真義さん

### 県博に600点を出品

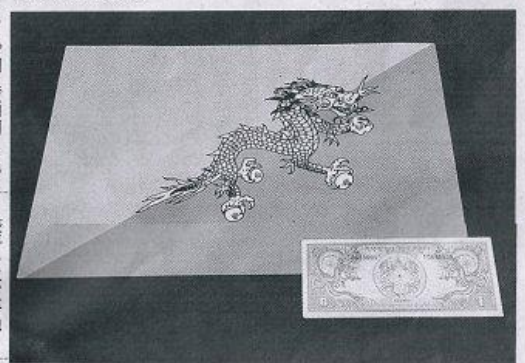
「一年の計で『趣味を持つ』と決めた人も多いのではないかな。その『趣味の世界』で屈指の人物が上越市にいます。板倉区稲増の浄光寺住職、平田真義さん(59)だ。三月十一日まで長岡市の県立歴史博物館で開かれている「紙のお金、金のお金」展に収集した世界の紙幣約二千点のうち、六百点余りを出品した。

世界の面白さ  
生徒へじかに

平田さんが紙幣に出会ったのは二十五年ほど前、高校で地理を教えた時、教材に搭載されていたのはインドの紙幣で、多様な言語や文字が印刷されていた。「紙幣なら世界の面白さを生徒にじかに知らせよう」と

「ができる」と思ったという。「それまでは旧国鉄の切符を収集していたんです。珍しい駅名とか新春の記念切符とかも

ある。例えば印刷ミスでできたエラー紙幣や流理する前、銀行だけに配布されたエラー紙幣見本など。本来市場に出回ってはいけないものは高値で取り引きされます



「歴年にちなみ、龍がデザインされているタイタンの紙幣。通貨単位は「ヌルタム」

ね(平田さん)。当然購入しなければならぬのでお金がかかるが、それ以上に情報を教えてくれる人との出会いがなければ、紙幣との出会いはないのだという。平田さんは「インターネットならめぐるインターネットショップです」と笑う。

「さまざまに思いを巡らす紙幣を通して感じる」と

「とがある。それは『縁』だ。この国で流通していた紙幣が流れ流れてわたしの手元に来て。来た。どんなものを買ったか。どんな職業の人がどういう風に働いて得た紙幣なんだろう。思いを巡らすと、紙幣を通して人との縁を感じますね」と話す。

「現在も有効な紙幣の中では最古の1円券。描かれているのは農業の神、大黒天



無数の紙幣に囲まれ平田さん。10年間で1000枚の紙幣を集めたほか、国鉄時代の切符コレクションでも有名

#### 金箔製の紙幣

1984年と1985年に発行された金箔製の紙幣は、通常の紙幣とは異なり、金箔が施されています。これは、紙幣の耐久性を高め、偽造防止を図るためです。



コレクション用に発行された金箔製の紙幣。左は中米ペレスの20円札(1984年発行)、右はカリブ海のアンティグア・バーブーダで1981年に発行された30円札。両方とも紙幣として使用できる。

一嶽 盃 寿 献 辰 義 旦

久比岐野書道会  
内山一嶽 書